

三重大学 人文学部

法律経済学科

特殊
講義

「協同組合論」



山本 昌也 / 三重大学生生活協同組合専務理事

大学と協同組合

第4回（10月24日）：受講 46 名（受講生 39 名・聴講&スタッフ 7 名）

全国の大学生協が掲げるスローガン「よりよき生活と平和」は経緯と理由がある。大学生協は組合員の出資・利用・運営のしくみで組織されている。三重大学の学生は、ほぼ全員が組合員であり学生生活を充実できるよう組合員どうしで助け合う共済や、運営に参加する「ひとこえカード」などのしくみがある。SDGs と商品価値への理解と利用が広がるよう皆さんと考えていきたい。

【講義の主なポイント】

- ・太平洋戦争では多くの大学生が学徒出陣で犠牲となった。また、軍国主義の下、全国にあった大学生協が次々と解散に追い込まれた。戦後、大学生協が再建される中で「よりよき生活と平和のために」がスローガンとなった。
- ・全国の大学生協は、組合員の協同、協力、自立、参加を使命に、魅力ある大学づくりを事業で支援し貢献する。そして、大学の理念と目標の実現に協力し活力ある人を社会に送り出し、地域社会の活性化に貢献していくと掲げている。
- ・三重大学生協の設立趣旨は、消費者運動の推進と、福祉厚生施設を利用者の立場から運営すること、大学生活の充実を図る運動の推進者となることである。
- ・三重大学生協は、組合員どうしの「つながり」「たすけあい」「協力」と、「魅力ある大学」づくり、人にやさしい平和な社会づくりをめざしている。
- ・生協のしくみは、組合員が出資・組合員で利用・組合員の運営である。利用によって生まれた剰余は組合員に還元される。これが民間企業との違いである。
- ・協同組合の精神を一口に言えば助け合いの組織である。
- ・特徴的な取り組みに、「たすけあい」の共済がある。共済は掛け金を出し合い協同の財産を準備し、加入者のもしもの時に経済的損失を補うものである。組合員どうしで助けあうしくみである。
- ・「ひとこえカード」も生協としての特徴的な取り組みである。生活をよりよくするため意見をだすことで改善や運営参加につながっている。
- ・エシカルや環境配慮など商品価値への理解と利用をひろげる。学生のみなさんは、三重大学生協を活用して、よりよい生活をつくっていくことが大事である。

第2回講義…受講生の感想レポート（一部抜粋）

Aさん（2年生）

三重大生協について不透明な部分が多か、下の「生協の歴史」ともに多くのことを理解することができた。特に自分自身が組合員の一員であり主体的に運営に関わる必要があるということがわかった。

通常のスポーツセンターのまわりの経営しているだけでなく、大学生自身が組合員のため自分達の関わり次第で大きく経営を左右して、良い方向へと変えることができるということは生協の唯一の権利であると感じた。

またSDGsの取組にも取り組んでいるということも時代により強く求められているような取り組みをしているのたこと理解できた。

学生のニーズに応えるカードで経営していくことはとても重要だと思う。

Bさん（2年生）

大学生協の歴史をたどると、戦前に発足したとしても戦争に於て潰されたり、ほうなどといった大変な道をたどったということがわかりました。そこから「よりよい生活と平和のために」というスローガンのもと、生徒なども含めて発足を強く願ってできたのがわかり、今の自分たちと意識のしかたが全然違っていたと感じました。日赤豊田看護の例を見ても、最近でも先生なども自ら生協をつくらうと声を上げ、実際に生協をオープンさせることができて、少し身軽なものだなど感じました。生協のたけあいの精神から英済の内容もかわってきて、時代の変化にも対応したよい組織だと思いました。自分は今が2回ほど通院したけれど、保証がなかったら、このままならいけばよかったかと思いました。

Cさん（2年生）

今、大学に通っている生徒の中で声を上げて紛争を起すほどの不満を大学に対して持っている人はほとんどいないと思う。それは、1960年代～70年代に至る当時の学生達が自分達により良い大学を作るために努力をしてきた結果なのだと知り驚いた。感謝したいとは思わなかった。また、自分自身の学校に対して、生協に対して思うことなどがあれば組合員だからと、声をあげて提案をしてきたと思う。自分が組合員である以上は、受け身ばかりではなく、積極的に提案をして行動していきたい。

Dさん(2年生)

大学生協の課題として、「生協組合員としての自覚がもたれにくい」という点があげられており、確かに自分としても生協に入っていることは知っているが、生協に組合員として参加しているか考えるといまいち参加している感じが無いなと思えました。ただ最近大学生協についてのアンケートに答えたのですが、アンケートは実際に生協を利用している組合員の利用状況など細かく回答が分かれており、実際の声が運営する側にまわることにより生協が利用しやすいものに発展していくのかなと思えました。今回の講義で大学生協の歴史や運営の仕組みを知ることができ、生協の組合員として積極的にひとえカードなどと参加していくことで運営にも関わることができ、自分の利用するものをより良くすることができると、気持ちよかったです。

Eさん(2年生)

出資者や利用者であることは分かりやすいし、実感をもちやすいことだけど、運営する主体でもあるということは普段の生活だけであまり感じることがないということには、本当にどうであるかと。利用者や運営者が同じということには他の一般的な団体(企業とか)と異なる点があり、最大の自覚であると感じた。お礼カード等のために素朴な意見、率直な意見を述べて自分のためにも、他の組合員のためにも、この組合をより良くするために参加していることだと思えた。命や健康が感じやすく、関係性を実際に運営している方々にいってもらうことで、組合の発展に積極的に参加できることをこの機会に実感につながりかたと思えました。

Fさん(2年生)

最も身近な協同組合としての大学生協、そして自分が組合員であることを意識したのが、今回お話を聞くことで協同組合としての大学生協について実感することができました。大学生協を通じて協同組合の「組合員に対する組合員のための仕組みの重要性・可能性」を経験に照らし理解することができたと思います。学生はその運営に直接関わることはできませんが、生協で大学生のための配食や運営が行われていることや、干渉マイク、ほうりん草やフェアトレードの例のように生協の運営を通じて誰かのサポートができていることが知られたことが同時に、アウト-活動を大々的に周知せしめたい力に、強い必要性を感じました。

Gさん(2年生)

今回の講義で生協には100年近い歴史があることがわかった。三重大学生協は1970年に生協が設立し、来年には50年にたることがわかり、かなり長い歴史があることを知った。生協は長い歴史を踏まえて大学や学生といった組合員のニーズに合わせて変化しているのかわかって、年々我々組合員の生活がより便利になってきていることが昔の事例と比べて実感あることができた。生協の4つの使命である協同、協力、自立、参加は、非営利組織としてはとても重要なことがよく理解することができた。利用と還元の流れは、どこもいい仕組みだと思った。この剰余還元は、組合員にとっても生協にとってもwin-winの関係になっていると感じる。組合員の声も直接生協へ届くことこそカードのシステムは互いの意見を知らせているのにより実用していると思う。自分が出資者である実感も感じられることが、最も良いと思った。

Hさん(3年生)

生協のおかげで、今の私達の快適な暮らしがあるのだと思いました。生協の組合員であるという意識のある学生は少ないと思います。そのため、少しでもそのような意識をもって、大学を自らの手で変えて良くしていかなければならないと思いました。1970年に生協がつくられて以降、私達の先輩方の手で大学はよりよい形に変わってきました。私達がそのバトンをきちんと受けとり、次につないでいかなければならないと考えました。

以上